

令和3年度 第3回江別市文化財保護委員会会議録（要旨）

日時	令和4年3月24日（木） 午前9時58分～午後12時12分
場所	江別市教育庁舎 大会議室（リモート参加、対面参加の併用）
出席委員 （7名）	（リモート）◎小林孝二、○小田嶋政子、池田典子、後藤一樹 （来 庁）岡崎晃三、忠岡三七海、本吉トキ子（◎委員長、○副委員長）
欠席委員 （3名）	浅田眞、右代啓視、西田秀子
市・事務局 （5名）	教育部長、教育部次長、郷土資料館長、文化財係長、文化財係主事
傍聴者	なし
審議等	報告：令和4年度事業計画について 議題：江別市指定文化財の現状変更について

会議録（要旨）

委員長	（午前9時58分開会） ただいまから、令和3年度第3回江別市文化財保護委員会を開会する。 本日は、当委員会では初めてのリモート及び参集対面を併用する形式での開催であるが、皆様には発言の際の機器操作等に留意願いたい。 それでは、令和4年度事業計画について、事務局から報告願う。
事務局	令和4年度の郷土資料館事業の内、文化財係所管の事業について説明する。 はじめに、発掘調査については、5月から7月にかけて3箇所を実施する。高砂遺跡での個人住宅建築に伴う2箇所、元江別本町の元江別9遺跡での個人経営のアパート建設に伴う1箇所である。8月からは令和3年度に完了した高砂遺跡及び西野幌16遺跡での現地調査に続く、整理作業を行い、報告書を刊行する。次に、ロビー展を夏と冬にそれぞれ1回、計2回開催を予定している。次に、野幌太々神楽の保存会、伝承会の2団体に対しては、引き続き、補助金を交付して活動の支援を行う。次に、大麻北町の文化財整理室については、現況図の作成を行う。
委員長	令和4年度の事業計画について説明があった。順に委員から、質問を受けたい。
委員	大麻北町の文化財整理室の現況図作成については、取り壊し前提の作業になるだろうが、建物について市民の見学の機会というのは考えているか。
事務局	建物の状況や不特定多数には対応できないなどの事情があり、考えていない。
委員	少なくとも保護委員会委員には一度見てもらいたい施設であるから、早い時期に実施できるよう検討してもらいたい。
事務局	委員の見学については検討したい。
副委員長	野幌太々神楽に関しては、関係者から衣装を新しくするという話を聞いているが、教育委員会からの補助額は例年に比べ増えるのか。

事務局	まず、江別市野幌太々神楽伝承会については、発足当初に補助金を導入して、衣装を整備した経緯がある。その後劣化も進んでおり、例年の教育委員会からの30万円の補助金は、活動費と用具整備費に充てられている。 次に、野幌太々神楽保存会についてだが、教育委員会からの補助金とは別に、国への申請を進めている。今般、国の補助金の仕組みに変更があり、基本的には国指定の無形民俗文化財に対する補助金だったものが、それ以外の伝統芸能にも門戸が開かれた。この情報を踏まえて、当係は申請事務の仲立ちをしている。大正年代から昭和初期のものという鎮護鉾の衣装などがかなり擦り切れており、そちらの更新も進むと期待している。
委員長	その国の補助金が確定するのはいつ頃か。
事務局	国の令和3年度補正予算による補助金であるので、令和4年度当初には、採否の決定通知があると見込んでいる。
委員長	近い時期ということがわかった。次に質問はないか。
委員	今年の大雪で、文化財の建物などが被害に遭っていないか。
事務局	郷土資料館が所管している施設では、大雪に伴う被害はなかった。ただ、報道もされているが、教育部生涯学習課所管の旧町村農場では、雪の重みで第一牛舎の屋根の一部が破損した。現状復旧という形で修繕を計画していると聞いている。
委員	大麻北町の文化財整理室については、将来的にどのように考えているのか。
事務局	文化財整理室については、令和3年度に旧角山小学校への移転を進めてきたところであり、作業についてはほぼ完了している。移転後の大麻北町の土地については、建物等のある現況で売却する方針としている。
委員	大麻北町の文化財整理室以外でも文化財を保管していると聞いたことがあるが、現状はどうなのか。
事務局	かつては北海道林木育種場旧庁舎でも埋蔵文化財の収蔵をしていたが、令和2年度中に搬出し、現在、収蔵施設については旧角山小学校に一元化している。
委員	観光ボランティアとして東京で建築の勉強をしている大学院生3名の案内をしたことがある。江別のれんが、そして旧岡田倉庫に注目して訪れたもので、残された地方の文化財を調べ、今後の建築に活かしていきたいとのことだった。熱心な学生に触れ、さらに、案内時の解説を充実させたいと感じた。
委員長	江別に限ったことではないが、地元の人たちが地元の文化財の価値に気付いていなくて、外から言われて初めて気付くというパターンは多い。市民向けの講座や、例えば国内の木骨石造倉庫の専門家によるシンポジウム実施など、活動を広げていけば、市民や道民の関心を深めていく方向に進むのではないか。 令和4年度の文化財係所管の事業についての質問等はここで締めて、他の部局での文化財関係の情報があれば、報告願う。
事務局	旧町村農場については、雪での破損に伴う修繕とは別に、全体的な改修が予定されている。老朽化した第一牛舎、旧町村邸、製酪室などを改修するもので、令和4年度にワークショップを開催して、施設に対するニーズを調査したうえ

	で、新機能を付加しようとしており、令和5年度に改修工事、令和6年にオープンというスケジュール感で計画していると聞いている。
副委員長	今後も大雨や大雪等が想定されることから、破損に応じての修繕から踏み出し、各部署で管理する施設について老朽化の程度など一覧にまとめて、将来に向け計画的な対応をお願いしたい。
委員	将来的には文化財に関わる施設を統括する部署が必要であり、真剣に議論していくべきと思う。
委員長	<p>文化財の定義はいろいろあるが、広く捉えるのがトレンドであり、指定されていないものでも、市が所有していて明らかに文化財として扱っているものもたくさんあるのが現状である。それらについては一元化して、教育委員会の枠を越えて全市的に考えてもらいたい。一覧表から、どういう優先順位で、どの建物をどの部分から修繕するかという検討をしてほしい。市の文化財や市役所所管のもの、もっと言えば民間のものも含めて、データをまとめてもらいたい。</p> <p>ここで、北海道林木育種場旧庁舎の利活用について、私から伝えたい。先日、生涯学習課から連絡があったが、大雪の影響もあって工程が遅れているようで、カフェ部分については連休後のオープンで調整しているとのことだった。一度、私も珈房サッポロ珈琲館の責任者に会って建物の歴史的なことなど話したいと思っている。それから、前にも言ったが、生涯学習課の担当なのだろうが、林木育種場旧庁舎という文化財が活用され、珈房サッポロ珈琲館によりカフェがオープンするという周知があまりされていない。これは非常にもったいないことだと思う。</p> <p>ここまで、来年度事業及び文化財係以外の関連事項について、質疑を行ってきた。他に意見・質問はあるか。</p>
委員	街の文化財の総点検が必要と考える。例えば、野幌屯田兵第二中隊本部では、結構傷みが出ており、窓の軒下、石段の上の壁、裏口の段の板など腐っている部分がある。第二中隊本部の建物は江別の素晴らしい、本当に中心みたいな建物であるから、一度総点検をして、計画的に修繕を進めてほしい。
委員長	第二中隊本部については、私も助言する形で加わり、何回か小補修はされているが、今後も見据え、他の文化財も含めて全体で考えていくことが必要である。
事務局	<p>第二中隊本部に関する経過だが、平成24年に古建築に精通した業者による総合的な診断を受け、傷んでいる箇所を把握を行ったが、当時の補助制度の導入は難しかったので、修繕に着手とはならなかった。</p> <p>現在は、補助制度が変わり、石狩振興局の地域づくり総合交付金に指定文化財の補修等に関するメニューがあると聞いているので、方向性としては、それらも活用しながら、再度、傷み具合の再確認を行い、修繕等につなげていきたいと考えている。</p>
委員	文化財整理室の件だが、移転した先の角山での状況はどうなっているか。文化財保護委員による見学などは可能なのか。

事務局	まだ、雑然としている状況であり、ある程度整理がついた段階で委員による見学を設定できればと考えている。
委員長	これまでの会議で、建物の中もそうだが、資料の保管状況について懸念していた委員もいるので、情報は示してほしい。
委員	収蔵する遺物は増えていくと思うので、使い始めの早い段階で状況を見せてほしい。
事務局	建物内の状況や、文化財系の職員配置の状況なども踏まえ、適切な時期に資料保管状況等の確認ができるように検討したい。
委員長	前向きに検討願う。ここで、報告事項は終了する。
委員長	次に、議題の江別市指定文化財の現状変更について、事務局から報告願う。
事務局	<p>まず、江別市指定文化財の現状変更に係る令和3年度開催の文化財保護委員会での審議等について振り返る。</p> <p>○現状変更の申請</p> <p>令和3年7月1日付で江別市指定文化財である旧岡田倉庫の所有者の江別市から教育委員会に対し、旧岡田倉庫に係る現状変更の申請があった。現状変更申請の理由としては、千歳川の堤防整備に伴い、整備予定地が旧岡田倉庫に掛かることから、現状位置での保存が困難になったため、近傍地への建物の移設を検討中ということであり、市では復元工法により移設する移設先の土地について、一定の目途がついたと考えこの申請を行ったものであった。</p> <p>○文化財保護委員会への諮問</p> <p>《第1回文化財保護委員会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該申請を受け、定例教育委員会の決定に基づいて、令和3年8月27日付で書面開催された第1回文化財保護委員会において、本件について江別市文化財保護委員会に諮問し、教育委員会への答申をまとめるための審議をお願いした。 ・第1回委員会では現状変更申請書、移設先候補エリア、旧岡田倉庫移設に関するスケジュール案等を資料として示した。これら諮問内容及び付属資料について各委員には詳細な検討をいただき、多くの意見が寄せられたところであり、それらを9月16日付で取りまとめて各委員に送付した。 <p>《第2回文化財保護委員会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回委員会は11月10日に対面の会議として開催し、委員全員が出席した。この会議では現状変更に対する各委員の意見を分類して示した。意見として多かったのは、移設するとした時の「復元工法」に関するもので、創建当初への復元にどの程度配慮するかという内容であった。 ・このことについては、旧岡田倉庫の復元に関しては、教育委員会としては、従来から、文化財指定時の文化財保護委員会の意見も踏まえ、修繕などの

	<p>機会を捉え、できるだけ創建時の姿に復元するべきであると考えていたところであって、このたびの復元の細部については、いまだ決まっていない状況であるので、所有者である江別市から現状変更申請を受けたという形の中で、これから、保護委員会での議論を進めていただきたいと考えている、との説明をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この会議では、委員会での意見・課題が総合的、多岐に渡り、委員からの意見の整理と、教育委員会の方針を示してもらった上でなければ、議論も進まないとの意見をいただいた。この意見を踏まえ、本日会議の資料として、「旧岡田倉庫の現状変更に係る委員意見及び教育委員会（教育部）の考え一覧」という形で整理したものである。
事務局	<p>続いて、資料に基づき、これまでの委員意見とそれに対する教育委員会（教育部）の考えについて説明する。</p> <p>○移設の可否について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧岡田倉庫の移設に関しては、江別発祥の地を語れなくなる、現地に保存すべきだという意見の一方で、移設はやむを得ないという意見もあった。 ・今後については、教育委員会としても、本来であれば元にある場所で保護していきたいという考え方が根底にはあるのだが、地域住民の安全のための築堤工事もまた重要であり、移設はやむを得ないものと考えている。 <p>○移設候補地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移設先については、例えば、防災ステーションなど管理しやすい場所が望ましいとの意見があったが、市の庁内検討会議でまとめたように、舟運の歴史とのつながりから、旧岡田倉庫の現位置近くが望ましいと考えている。 ・現在地近くの公有地や民有地についても検討を行ったが、各所有者の意向もあり、承諾を得られたのは、現在移設先としている土地の地権者のみであった。 ・旧岡田倉庫の移設を進めるに当たり、移設先地に現在ある建物の解体は避けられない状況ではあるが、何らかの記録を残す等の方策を考えたい。 <p>○移設方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長から曳家工法が経済面では有利との意見があったが、一度解体し、移設先で組み立てる復元工法にも利点があると考えている。 ・市指定文化財に指定の際、修繕などの機会を捉え、できるだけ創建時の姿に復元するべきとの意見があったが、当時の資料が見つからないというのが現状であり、今後も資料を探す努力は続けるのだが、移設の機会を活かし、復元工法の過程で内部構造や現状では見られない部分の記録を取って、資料を補いたい。 ・図面等資料の収集には、条丁目地区の方に声掛けをして、旧岡田倉庫の写っている写真等を収集し、創建時の姿への復元に活かしていくことも必要

	<p>かと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物に関することは、建設部からの見解を聞きたいという意見についてだが、来年度移設に関する実施設計を予定していると聞いてはいるが、設計以前では建物に関しては具体的な動きはないことになる。この実施設計についても専門家の意見を聞きながら実施設計に反映できるように進める考えであると聞いている。 ・作業部会を立ち上げるべきとの意見については、今後の検討の進捗等に応じて、委員の皆様と相談しながら進めたいと考えている。 <p>○移設後の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり協議会においては、条丁目地区の歴史を踏まえ、旧岡田倉庫を観光・まちづくりの拠点と位置付けた上で、かわまちづくり計画の検討が進められている。旧岡田倉庫利活用の具体的な内容については、今後継続的な検討が行われると聞いており、引き続き、かわまちづくりの事務局とも情報交換しながら協力していきたいと考えている。 <p>○旧岡田家住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧岡田家住宅について、歴史的建物の専門家が現地の調査を行っており、間もなく報告書が出来上がると聞いている。教育委員会としても情報入手して旧岡田家住宅が報告を基に現状を損なわない方法で保全できれば望ましいと考えている。 <p>○かわまちづくり計画との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくりで整備する範囲は、旧岡田家住宅の並びから千歳川までと限られてはいるが、教育委員会としても歴史性を活かしたまちづくりに協力することによって、条丁目地区の歴史を見直す機運が高まることを期待している。 <p>○今後の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めに説明したが、旧岡田倉庫の移設については地域の安全等を考え、教育委員会では、現状変更について許可する考えでいる。 ・許可した後の取り組みとしては、これまでと違って、移設に関わる業務が進む中で検討材料も揃ってくるので、移設の仕方などについて、随時、保護委員会等で確認していけるように、付帯事項を付けるという形も考えている。
<p>委員長</p>	<p>旧岡田倉庫の市指定文化財の指定の時から、移設の可能性があるということは指摘されていて、建物の歴史的背景や地域性を末永く伝えていく取り組みについて、配慮してほしいとの意見を添えて、答申した。</p> <p>市指定文化財になった後の現状変更というのは状況に応じて可能であるわけで、絶対動かしてはいけないということにはならない。指定文化財を動かすことで、条丁目地区の景観をさらに破壊することになるという一面はあるが、ただいまの説明については、ある程度受け入れざるを得ないと思う。教育委員会の考え方は聞いたので、委員の意見を聞きたい。</p>

委員	場所を移すというのも現状変更であるし、文化財の指定を取り消すというのも現状変更である。現状変更とは具体的にはどういうことか、再度確認したい。
事務局	場所を移すという現状変更であり、旧岡田倉庫の文化財指定の解除については考えていない。指定文化財としては、当然のことながら現状維持が最適な方法ではあり、場所を移すことで位置関係は若干変わることにはなるのだが、それ以外の部分でできる限り歴史的価値を損なわないよう、これから委員に相談しながら準備していきたい。
副委員長	旧岡田住宅に係る専門家の現状調査だが、最終報告の時期を確認したい。
事務局	令和3年度末であり、まもなく提出されると聞いている。
副委員長	そうすると、現状変更に係る教育委員会への答申はいつまでにすべきか。
事務局	答申の時期については、令和3年度第1回の保護委員会（書面開催）の際に令和3年度内に提出願いたいと伝えたが、現時点で年度末を迎えようとしており、今後、答申は令和4年度の早い段階に願いたい。
委員	前回も話したが、旧岡田倉庫の管理に長年関わってきた立場で言うと、旧岡田倉庫を移設して利活用するとしても、施設運営面を考えると、移設場所が適当なのか疑問を持っている。
委員長	施設管理の視点では、指定文化財の利活用と保存とが相反することになってしまっている。今後、移設の機会を捉え、できるだけ創建時の姿に復元するという方向に進めるのならば、資料収集して行うべきだが、創建当初の図面入手はかなり難しいと思う。現状では内部がかなり改修されて立派になり、利活用されているが、それを創建当初に戻すのか、また他の利用の仕方を考えるのかという議論も生じるだろう。そしてそれをどの場で行うのかという話になる。
委員	現状で旧岡田倉庫は集会所という扱いになっており、2階に窓を付けるなどの改修を施している。隣の旧岡田家住宅の日本間も活用しているなど、施設運営では関連性がある。今回は旧岡田倉庫の現状変更について申請されているが、旧岡田家住宅とのつながりをどう整理するのか、施設運営する私の立場でも承知できていない。
委員長	その改修前の状況にはわからない部分が多い。平成6年3月発行の「江別市古建築所在調査報告書」の編集を私も手伝ったのだが、この時に改修前の旧岡田倉庫の内部を見ており、床も砂利か土のままだったとの記憶がある。 ここで、現状変更に関して整理すると、問題としては2点ある。 ①現状変更については、移設により位置をずらすことの問題。 ②建物を市の指定文化財としてどう直すか。これには利用も含まれる。最近では積極的に文化財を利用しようというのが全体のトレンドでもある。 基本的には、堤防を改修するのであれば、今の位置には置いておけないということであるが、これまでは、かわまちづくり協議会でスケジュール含め、ルールが敷かれてきている。移設に関わる細部の議論はどこでするのか、それが今後の課題であると思う。

事務局	かわまちづくり計画については、かわまちづくり協議会の議論に基づいてかなり出来上がってきている。ただし、それは全体整備の方向性を盛り込んでいるという形であって、具体の事項や関連する設計などについては、来年度において検討が続けられていくと事務局から聞いている。したがって、旧岡田倉庫の活用方法についても、詳細についての検討はこれからである。
委員長	そうした中で、移設工事に係る実施設計は令和4年度に行うと聞いたが。
事務局	かわまちづくり協議会での詳細についての検討が続くのと同時に、旧岡田倉庫を移すため、移設復元に係る実施設計という業務が令和4年度に建設部から発注される。かわまちづくり計画の詳細検討と移設の実実施設計が並行して進むことになる。これらが並行する中で、移設に当たって建物をどのようにするかということが決まっていくことになる。 建物の移設設計に当たっては歴史的建造物に関する知見を持つ方の技術的アドバイスを得る中で進め、意見を聞いてどこまでできるのか検討されるものと聞いている。文化財保護委員会においても同様に、一定の時期に設計などもどのように進んでいるのかを伝え、意見を聞きたいと考えている。
委員長	同時並行ということであれば、その利用の仕方によっては特に内部の造りは影響を受ける。利用の方向性が決まらなると、内部の復元の程度も実は決めづらい。ならば、限りなく当初の形に復元するという形を取るのがよいと思う。
委員	文化財としての価値を復元する際に、位置関係も大事である。移設して、現状で川に向かっていて入口の向きを変えたら、あの倉庫の価値は半減する。こういうことも考えて設計を進めてほしい。
事務局	委員の意見と同じく、現在の位置から動くとしても、川と並行した位置にあるべきと考えている。例えば、90度回転したなら、舟運の歴史を語るに当たって、裏の扉から川が見えるという状態でなくなってしまう。移設に際しての配置については、最善の注意を払うよう建設部の設計部門に伝えていきたい。
委員長	終了予定時刻が迫っているので、まとめたい。 本日の説明では、教育委員会としては現状変更の申請については認める方向でいくということだった。申請には、「移設にあたり、建物の現状復旧を堅持するとともに、創建当初の復元に配慮する」とあったが、委員から意見もあったとおり、文化財として可能な限り創建当初の復元をするという努力を求めたい。これには、建設部、経済部、教育委員会での連携が重要である。 当委員会には、正式に認める、認めないという権限はない。移設については、倉庫を無くしないために、現実的にそうなるのだろうが、議論の記録は残し、当委員会の意見を伝えてほしい。各委員の意見はどうか。
委員	今後、できるだけ創建時の姿を復元することについて、十分配慮願いたいと、委員会としての考え方を示すべきと思う。
委員	旧岡田倉庫を移すことで、他の所に影響が出るのだが、建物を残すためには、他の選択がない。移すのに賛成かということ、賛成という形を取らざるを得ないという状況である。

委員長	当委員会としては、現状変更について許可が妥当と意見具申し、教育委員会、教育長において、許可について判断してもらうことでよろしいか。
	《委員一同了承》
事務局	本日の委員会で現状変更については、やむを得ないという面もありつつも、許可が妥当という形でまとまったと受け止めた。今後は教育委員会への答申に向けて文化財保護委員会の答申書の文言などについて、事務局で原案作成の上、委員長、副委員長はじめ委員と調整を図っていきたい。
	《委員一同了承》
委員長	<p>そのように進めてもらいたい。</p> <p>前回も話したが、次のポイントは、旧岡田住宅の調査結果であろう。耐震性などから構造的に持つのかということがあるし、隣との間の石の壁については、隣の建物を壊した際に倒れれば、旧岡田住宅が破損することになってしまう。旧岡田倉庫との一体性についてもどのように評価するのだろうか。</p> <p>今日の主題は旧岡田倉庫の現状変更だったが、来年度に入ってから情報も共有していけるように、事務局にはよろしくお願いしたい。</p> <p>私事だが、先週私は道南の今金町に行ってきた。今金町に通い「文化財保存活用地域計画」策定に向けた各調査に協力してきたところだが、このたび、他では3年掛かるところ1年で同計画が出来上がり、町の総合計画に位置付けられる形となった。</p> <p>この計画が文化庁で認定されると各種の補助が付くことから、歴史的建造物や有形文化財を活かすイベント等いろいろと使えるツールとなる。江別市も単独費だけで、文化財を維持していくのは、今後は厳しいと思われるので、この計画の策定を本当に検討すべきだと思う。</p> <p>今回は、これで終わりたい。事務局から何かあるか。</p>
事務局	本日の会議は慣れない手法であったので、円滑でない部分もあったかもしれないが、ご理解願いたい。
委員長	これにて閉会する。
	閉会（午後12時12分）